

学位論文内容の要旨

学位申請者	SKENDER LIZATOVIC MAJA 【比較社会文化学専攻 平成25年度生】	要 旨
論文題目	日本語の道聞き談話における道順説明の特徴 —母語場面と接触場面を比較して—	<p>本論文では日本語母語話者同士の間で行われる母語場面及び、道を教える側が母語話者でかつ道を聞く側が中級日本語学習者（以下 NNS）である接触場面のデータを基に、日本語の母語場面と接触場面のそれぞれの場面の道順説明の特徴を明らかにした後、両場面の比較によって共通点と相違点を明らかにし、異文化間コミュニケーション教育への示唆を得ることを目的とする。</p> <p>本論文は3つの研究から構成される。研究1では道を教える側の発話を分析した結果、接触場面において道を教える側である日本人は道順説明の有効性より、NNSの認知負荷を軽減することを重視しているという結論が導かれた。研究2では道を聞く側の応答から、道を聞く側がただ受け身になって聞いているだけでなく、相づちや実質的発話による応答で道順説明の展開に影響を及ぼしていることが指摘された。研究3では道を教える側の反復や言いかえが、道順説明の分かりやすさや有効性を高める重要な働きをしていることを明らかにした。</p>
審査委員	(主査) 教授 佐々木 泰子	
	准教授 西川 朋美	
	准教授 野口 徹	
	准教授 伊藤 さとみ	
	准教授 小松 祐子	